

自治的な異年齢集団活動

小規模校における 話合い活動の工夫



全校児童による話合い集会の実践【特別活動】

各学級における話し合い活動の実態からの提案

実態

- 少人数のため、多様な意見が出にくい。
- 人間関係にほぼ変化がないことが影響し、議論になりにくい。また、十分な議論がなされないまま議決する傾向にあり、決定した内容の質が上がりにくい。（よく発言する一部の児童の考えに流されがちになる。）
- 多人数での話し合いの経験が少なく、友達の意見に対する返し方や話し合いのまとめ方などの話し合いのスキルが身に付きにくい。



提案

話し合いの経験の確保と話し合いのスキルの向上をねらいとして、全校児童25名による話し合い活動を実施（月1回程度）

伝え合いの技能についての重点目標の設定

1 伝え合いの技能（話す、聞く、話し合う）についての重点目標と手立て

	低学年		中学年		高学年	
	目標	手立て	目標	手立て	目標	手立て
話す	伝えるという意識を持って話す。	相手意識・目的意識を持たせる。				
	聞き手の方に体を向けて話す。	できているか動画で確認する。				
	場面に合った声の大ききで話す。	「こえのものを意識させる。」				
	語尾「です」「ます」までははっきりと話す。	話しているところの動画を撮り、話す速さ・口形等を確認させる。	言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話す。	できているか音声などを録音し確認する。		
話し合う	考えを言ってから理由を話す。	「話型」の活用をする。 ・～と思います。どうしてかという～だからです。	大切な言葉（5W1H）を落とさずに話す。	事前に5W1Hを意識させたりメモを活用させたりする。 ・いつ ・どこで ・だれが ・何を ・どうした ・どうだった	相手の考えを引用したり、例を示したりして話す。	「話型」の活用をする。 ・〇〇さんは～と言っていましたか…。 ・例えば…。

目標を意識をさせることで、相手の意見を引用できるようになってきた。例を示して説明することはまだ不十分。

	低学年		中学年		高学年	
	目標	手立て	目標	手立て	目標	手立て
聞く	話し手の方に体を向け、最後までだまって聞く。	できているか動画で確認する。	大切な言葉（5W1H）を落とさずに聞く。	5W1Hに気を付けながらメモを取らせる。		
	どんな内容か考えながら聞く。	「なるほど」と思ったらうなずきながら聞くように声掛けをする。	自分の考えと比べながら聞き、反応する。	聞く視点を明確にして聞かせる。 自分の意見を持った上で聞く。	話し手の意図を捉え、自分の考えと比べながら聞く。	聞く視点を明確にして聞かせる。 自分の意見を持った上で聞く。 聞いた後にその情報をどう学習に生かすのか事前に伝える。

	低学年		中学年		高学年	
	目標	手立て	目標	手立て	目標	手立て
話し合う	話し合う目的を明確にして取り組む。	話し合う目的を明確にしてから話し合う。				
	話題からずれないように話し合う。	「なるほど」と思ったらうなずきながら聞くように声掛けをする。	意思表示をする。相手の話と比べ、つなげる言い方を使って話し合う。	自分の意見を持った上で話し合い活動に参加する。 「話型」を活用する。 ・付け足し	意思表示をする。相手の話と比べ、つなげる言い方を使って話し合う。	自分の意見を持った上で話し合い活動に参加する。 「話型」を活用する。 ・付け足し ・反対 ・質問 ・まとめ ・深まり

児童に身に付けさせたい力について、教職員で話し合って、学校独自で作成。

ふりかえり（児童）や検証（教職員）がしやすいように、児童の実態に応じて、特に身に付けさせたい力をブラッシュアップし、重点目標を設定している。この目標に基づいて、話し合いの実施後、ふりかえりと検証を行っている。



全校児童による話合いの概要



【これまでの議題】

- 今月の全校目標
- 運動会のスローガン
- 6年生を送る会でやりたいゲーム

- 全校児童25名（1年生1名、2年生5名、3年生10名、5年生5名、6年生4名）で、毎月の生活目標や行事のスローガン等について話し合う。
- 集会の時間は25分間（内容により45分の場合もある）とする。
 - ☆司会は、5・6年生の担当児童（3人）が行う。
 - ☆事前に各自が議題についての考えを持ち、学級で話し合いを行い、学級としての意見をまとめる。それを各学級からの提案とし、全校で話し合いを行う。
 - ☆教職員は、話し合いの後に重点目標に準じた検証カード（各目標について3段階で評価）に記入し、それを集約して、学級で指導すべきことや集会の改善点等について職員研修等で共通理解を図る。



話し合いマニュアルの作成

全校集会 話し合いの進め方

進め方	内容（●司会 ◎参加児童）
1 はじめの言葉	● 起立。今から第〇回全校集会を始めます。礼。着席。
2 議題の確認	● 今日の議題は（今月の目標など）です。
3 話し合い	● 話し合いを始めます。6年生から意見とその理由を発表してください。
① 意見発表をする。	● 各学級から出た意見に質問はありませんか。 ※ 必要があれば質問をし、同じような意見が複数の学級から出ていることが分かったら ● ○年生の意見と△年生の意見をまとめて～という意見にしていいますか。
② 賛成・反対の意見を出す。	● これらの意見について賛成や反対の意見を発表してください。まず、賛成から発表してください。 ※ 賛成（黄） 反対（青）の意見が出たら、数を記録しておく。 ● 今の〇〇さんの意見に付け足しする人はいませんか。 ◎ 自分と同じような意見であれば、「同じ意見です。」と言う。 ※ 複数同じ意見の人がいるようであれば ● 同じ意見の人は手を挙げてください。 ● 他に意見はありませんか。（ないようであれば反対の意見はないか聞く）。 ● 次に反対の意見について発表してください。 ● 今の〇〇さんの意見に付け足しする人はいませんか。 ※ 複数同じ意見の人がいるようであれば ● 同じ意見の人は手を挙げてください。

板書の際の色分け
（P. 8 写真参照）

司会の児童が、このマニュアルをベースに話し合いを進める。回を重ねるごとに、児童は慣れてきて、ほとんどマニュアルを見ずに進行ができるようになった。また、マニュアルに捉われすぎることなく、全体の状況に応じた進行もできるようになってきた。

実践を繰り返しながら、特活主任や研修主任が中心となって、随時、改訂を加えながら作成した。

話し合いが始まったら、多様な意見が出るように司会者が工夫しながら進める。



⑤

話し合いの実際

高学年にとっては、よりよいものを選んだり（生み出す）、
下学年に分かりやすく説明したりする活動を通して、表現力
や語彙力を高める機会となることが期待できる。

① 話し合いの「めあて」「議題」「流れ」等について確認する。

② 各学年からの提案を発表する。

中学年

CHECK POINT !

主な提案理由
についても書き
留めておこう。

自分たちの意
見と同じところ
や違うところは
どこかな？

高学年

低学年

各学級の代表児
童が、なぜその提
案にしたのか、理
由を付けて発表す
る。

発達の段階に応
じて、原稿を用意
したり、練習をし
たりして話し合いに
臨む。



③ー 1 出された提案について各自で意見を述べる。

CHECK POINT !

意見交換の前に、どういう提案がふさわしいのか、自分が推薦する提案を選ぶ際の観点を司会が説明する。

「〇〇がいいと思います。理由は、～～と思ったからです。」

「〇〇さんに質問です。～～とはどういうことですか。」

活発な話し合いになるよう、司会児童の育成に努めた。担当教員は、あくまで助言に徹し、様々な状況をどう切り抜けるか、できる限り司会児童に任せるようにした。2学期初めには、反応を見てもう一度分かりやすい言葉で言い直したり、出た意見に対して更に意見を求めたりするなど、場を意識した進め方が身に付いてきた。

「〇〇という意見には反対です。理由は、～～と思ったからです。」

「〇〇と□□は意味が似ているので合わせて1つにしたらいと思います。」

「〇〇というところを□□に変えるのはどうでしょうか。」

③ー２ 出された提案について各自で意見を述べる。

CHECK POINT !

話合いの見通しを視覚的に感じ取れるように、板書や掲示物（カード等）を工夫する。

CHECK POINT !

司会は、出された意見について、分かりやすく要点をしぼって板書していく。司会児童の聞く力や語彙力等が重要となってくる。国語科を中心とした普段の教科指導から、考えを説明する活動を積極的に取り入れ、要点をまとめたり、分かりやすく言い換えたりする力を育てる。

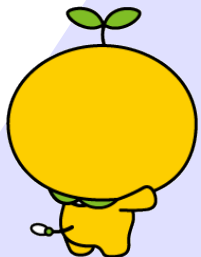
話合いの流れ・時間配分

CHECK POINT !

周囲の意見に流されるのではなく、反対意見も大切にしながら、個々の考えを引き出せるようにすることが重要！

各提案とそれに対する意見

議題



④ 決定する。

CHECK POINT !

教員は、児童が発言の内容を理解できるように、説明を行ったり、話し合いが停滞した場合には、進め方の助言を行ったりする。

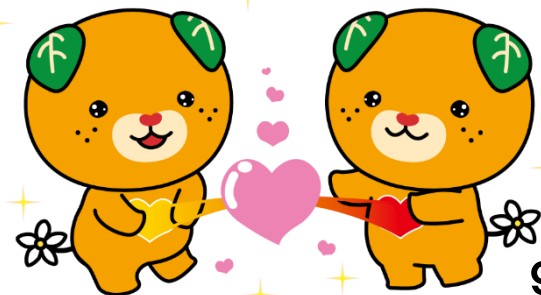
CHECK POINT !

話し合いの状況から、すぐに一つに決まる場合もあれば、議論を重ねた上でやむなく多数決で決める場合もある。スローガンのような重要な議題で、はっきりと決まらない場合は、高学年が協議して決める場合もある。

高学年のお兄さんの意見を聞いて、「なるほど。」と思ったよ。

進んで発表できたからよかったな。

どのような結論であっても、児童が「話し合ってたよかった。」と思える話し合いにすることが大切♪



成果



- 回を重ねるごとに、積極的に意見を述べようとする児童が増え、話合いが活発になってきた。話合いのスキルも身に付いてきた。
- 司会の児童のスキルが向上し、状況に合わせて全体をまとめられるようになってきた。
- 発達の段階に応じた伝え合いの技能の目標を設定し、実施後も継続して指導を行うことで、低学年の児童も意欲的に参加することができるようになった。
- 毎回、事後に教職員での検証を行うことで、児童の実態に合った改善策を講じることができ、話合いの質を確保することができた。全教職員で共通理解を図り、日常の指導における意識（よりよい話合いの方法の模索やねらいとする力の育成の仕方など）の向上にもつながった。

課題



- 児童には発達の段階があるため（語彙力や言葉の解釈に差がある等）、下学年が上学年のよい表現をきちんと理解できないことがあり、話合いが停滞することがある。全校で話し合う以上、ある程度は容認していかなければならないが、全体での話合いの前に、よりよい話合いの仕方について指導する必要がある。
- 低学年は集中力が切れやすいので、単調な話合いにならないよう、場の設定や流れを更に工夫したい。
- 司会の児童は、上手く状況判断をして全体に言葉掛けをしているが、下学年に意図が伝わらないことがある。短い言葉で分かりやすく説明する力を向上させるとともに、各学年の国語科の授業を中心に、話し合う活動や説明し合う活動を積極的に取り入れ、話す・聞く力の育成に力を入れたい。